

IV. 総括 2023

I. 生徒・保護者・教員の自己評価から

生徒からの評価を今年度と昨年度で比較してみると、16項目で満足度が上がっており、10項目で満足度が下がっている。4, 生徒指導部と5, 特別指導, 6, 環境保全のほとんどの項目で満足度が上がっているのに対し、1, 学校生活全般と3, 進路指導の項目で満足度が下がっている項目が多いことが今年度の特徴である。それぞれの部門ごとに見てみると、1, 学校生活全般の部では、①「本校の学習環境・教育設備の充実」②「国際教育」の項目が1.5%前後で満足度が低下している。環境整備については、一人1台のPC、タブレットの整備はできていないものの、授業に必要な台数を確保できている。国際教育に関しても、今年度より、3年ぶりに英国語学研修、オーストラリア姉妹校との交換留学が再開し、多くの生徒が希望している。また、昨年度末に台湾の光明中学校と姉妹校締結を行ったことから今後満足度が上がると思われる。2, 学習指導の部門では、3つの項目で満足度が上がり、2つの項目で満足度が下がっている。興味深いことに④「学習の必要性を認識し、自ら進んで学習している」の項目では5.6%満足度が増加しているが、⑧「家庭学習は十分にしている」の項目では満足度が7.5%も減少している。今年度から教育改革の1つとして、義務的な家庭学習を廃止し、自主的に学ぶ姿勢の育成として、単元テストの再試システムと手帳の活用をスタートさせた。まだまだ指導が不十分な点も多々あるが、④の項目が上がったことは良い傾向だと考えられる。一方で⑧の満足度が下がった要因として、昨年度まで使役的に家庭学習をしていた生徒が今年度は家庭学習への意識が低下したものだと考えられる。これは、予想できていたことであり、改善策としては、教員の粘り強い声掛けと将来を見据えた自己マネジメント力の育成だと考える。3, 進路指導部門では中学生の満足度が増加傾向にあるが、高校生で、特に高校1年生の満足度が例年低いので取り組みの改善が必要である。4, 生徒指導部の項目では、髪型に関する校則改定後、その指導に対する満足度は年々上がっている。また、今年度は、⑩「礼儀を守り、きちんと挨拶している」の項目で満足度が上がった。生徒会を中心とした朝の挨拶運動や部活動の活性化が要因としてあげられる。気になる点としては、⑮「心の問題に関する対応やカウンセリングの充実」の項目で昨年度より低いことで、保護者の評価、学校関係者委員の評価からも同じことが伺える。5, 特別活動の部門では全項目で満足度が上がっている。学校自体も明るくなってきていることを感じる。

保護者の学校評価から、全体的に⑬「服装や髪型に関する指導」と⑮「礼節をまもり、きちんと挨拶している」の項目では高い満足度を得ている。中学生の保護者の傾向として、お子さんに対する学習に取り組む姿勢に不安を抱えており、昨年度までのように、強制的に家庭学習をさせて欲しいという声もいくつか上がっている。また、学校の進路指導に対する満足度が高いがお子さんの進路実現に向けての努力が足りないと感じる保護者も多い。中学生を含め、高校生の保護者からは部活動に関する満足度が低くなっており、今年度の高校3年生の保護者の特徴として、お子さんの学習への取り組む姿勢や進路面での教員との連携の面で不安を抱えている方が例年より多く感じる。年々、部活動に関する評価は上がってきているものの、部活動に所属する保護者との連携が不十分を感じる。部内での保護者会を創設し、顧問との密な連携、選手のサポートを一緒になってやっていくという雰囲気作りが大切であり、本校のような小規模校の良さになると考える。

教員の自己評価から、全教員による中核目標の自己評価については、生徒、保護者の評価から日頃の取り組みを教員が評価するもので、今年度は⑦「国際教育の充実」、⑧「挨拶」、⑨「身なり」の項目で自己評価が高く、②「主体的学びの育成」の項目で自己評価が低かった。この項目は、教員評価が例年より下がったのに対し、生徒の評価は昨年度より3.6%満足度が増加している。今年度から新しいシステムが始まり、教員としてはまだ手ごたえが薄く手探り状態である。その不安と、教員の中に強制的に勉強させないと生徒はやらないと感じている

ことが満足度の低さに繋がっていると感じる。新学習指導要領の目的、これまで10年以上使役的学習による底辺層の伸び悩みの改善ということをもう一度考え、何より、生徒の満足度が上がっていることを自信に繋げ、粘り強く継続性をもって指導していくことが重要である。⑩「身なり」については、一部保護者から厳しすぎるという声もあるが、髪型に関する校則の大幅な改革など緩和できることは進めており、その指導に対しても、生徒、保護者からは高い評価を得ている。今後も、カトリック学校として、清潔で規律ある校風を身なりのことも含め守っていききたい。

II. 学校関係者による評価から

今年度もお忙しい中、本校の運営に携わっていただき、忌憚ないご意見いただきましたことに感謝申しあげる。まず初めに、今回は、委員の方々から厳しい意見も頂戴しましたが、真摯に受け止め今後、生徒が学びやすい環境作りを目指し努力していきたいと思う。先ず、中核目標の達成状況から、毎年教員の自己評価が「B」が多く、教員の意識の変化や今年度の特別な取り組みに対する現状がわかりづらくなっている。評価委員からもご指摘があったように、我々は自信を持って「A」評価をつけられるよう、日々努力をすることが大切である。また、主体的な学習に関して、自己評価が「C」となっていることで取り組みが不十分であることを自覚し、反省、改善に向かうべきだと感じた。今年度は、2, 各校務分掌の取り組み、4, 各教科の取り組み、5, 各学年の取り組みで「A」評価をいただいた。本校の取り組みとして、「教員のストレスチェック」や「授業前の1分間黙想」など、変化を恐れず、挑戦的な取り組みに関しては委員からも高い評価を得ていると感じた。また、評価委員の皆様から、行事を通しての生徒の成長、そこから主体的な学習の学びに繋がる教育の重要性を感じ、日々、生徒と一緒に成長する教員の姿勢が必要であることを認識できた。

III. 今後の取り組み

今回学校評価を終えて、教員の中核目標の自己評価の点で、「本校が目標とする生徒像」の表現の改善が必要である。2年前から、教育改革の一つとしてグラデュエーションポリシー（本校が目標とする生徒像と一致）の検討を教員内で重ねてきて今の表現となった。しかし、抽象的過ぎて解りづらく、教員の中でも評価できないという声があがった。また、「2023年度の重点目標」については毎年変えるのではなく、3年から5年スパンで継続的に取り組み、PDCAサイクルを回すことができるようにすべきだと感じた。また、教員の自己評価の見直しと学校評価を受けての改善取り組みをもっと明確化し、日々の取り組みが学校評価のなかでぼやけることなく可視化できた状況で評価を挙げていく工夫が必要である。今年度の学校評価で特筆すべき項目は2点である。1点目は、生徒の「学校生活への満足度」である。この項目は、これまで、特別活動の項目と比例関係にあったが、今年度は特別活動の全4項目で満足度が上がったにもかかわらず、学校生活の満足度が下がっており、原因を追究する必要がある。2点目は、学校関係者評価委員から6. 学校との連携「学校は生徒や保護者の悩みや心配事を親身になって対応している」の項目で例年より悪い評価となった。保護者の学校評価からこの項目の満足度は、中学生で86.7%、高校生で89.5%、全体で88%となっておりそこまで低い数値ではない。しかし、本校のアイデンティティとして、この項目は100%を目指すべき項目で現状の取り組みに慢心せず頑張してほしいという期待を込めての評価だと受け止める。「学校生活の満足度」の低下も含め、この件に起因する可能性はある。もう一度、生徒、保護者との係わり方を全教員で見直していきたい。